

第2回全国自給飼料生産コンクール出品財の概要

農林水産大臣賞（放牧部門 酪農経営） ※ TY:チモシー、MF:ドウフェスク、PR:ペレニアルライグラス、OG:オーチャードグラス、WC:白クローバー

出品者氏名	県名	出品財(牧草地)I		家畜飼養頭数(年平均頭数)					飼料作物作付面積(ha)			労働力 (人)	平均分娩 間隔	生乳中 体細胞数
		草種	実面積(ha)	畜種名	成牛	育成牛	子牛	計	永年牧草	その他	計			
長坂浩行 長坂可菜	北海道	(放)※TY,MF,PR,WC	21.3	乳用牛	77.5	17.5	22	117	85.3	0.0	85.3	家族 3	ヵ月	個/ml
		(採)※TY,OG,WC	64.0	経産牛1頭当産乳量	乳脂率		乳飼比		粗飼料自給率	TDN自給率	雇用 0	14.0	9,600	
		※草種名は右上を参照		6,850 kg		3.8 %		24.9%		100%	65%	生乳生産原価:48.9円/kg(3.5%換算)		

経営の概要

経営主の長坂氏は、北海道川上郡標茶町において、放牧を主体とした酪農経営を行い、経費節減、地球にやさしいエコな酪農とゆとりある経営、6次産業化の3つを目標として営農に取り組み、個体乳量の増大は無理に追求せず、人にも牛にもやさしいゆとりある家族経営をモットーとしながら、高い所得を実現している。

放牧を行いながら規模拡大を図るため群管理方式によるフリーバーン牛舎と電牧を利用した集約放牧(1牧区1日滞牧)を行っている。牛舎は発酵床を取り入れて牛床の乾燥と健康な牛づくりに努め、生乳中の体細胞数、細菌数を減らすとともに、地中熱交換システムにより夏は外気の温度を下げ、冬は外気の温度を上げてパーラー内を換気することで凍結防止や暑熱対策を省エネに行うなど創意工夫に富んだ経営を実践している。

粗飼料の自給率はほぼ100%、放牧地の植生改善に向けてペレニアルライグラスの追播をこまめに行って定着を図るとともに、定期的に土壌分析を行って草地の状況を把握しながら堆肥と化学肥料を施用して植生の維持を図り、購入飼料と化学肥料の節減に努めている。

牛舎は発酵床のフリーバーン牛舎で、発酵床の糞便は毎日取り除き、堆肥舎で発酵させた後におが粉とともに戻し堆肥として発酵床へ散布して発酵床の床面の乾燥を保つ。搬出した糞便は堆肥舎で堆肥化処理し、完熟堆肥にして春と秋に草地還元する。パーラー内汚水は三槽式の浄化装置により浄化し、パーラー室の床面の洗浄水として再利用するとともに清浄な上澄みを排水して環境にも配慮している。

生産された自家産の牛乳を使った乳製品を作り、多くの人に食べてもらおうべくチーズ工房の建設に着手、すでに長坂氏の弟がチーズ製造の研修を終えて6次産業化へ向け準備を進めている。

長坂氏は地元の茶安別地区の青年部長を務め、各種研修会の企画・実施や商工会と連携して特産品フェアを推進するなど、地域の活性化にも尽力している。

第2回全国自給飼料生産コンクール出品財の概要

農林水産省生産局長賞（飼料生産部門 酪農経営） ※ IR:イタリアライグラス、(自):自社有地、(借):借地

出品者氏名	県名	出品財(飼料畑)		家畜飼養頭数(年平均頭数)					飼料作物作付面積(a)		労働力	平均分娩 間隔	経産牛1頭 当産乳量		
		栽培草種(品種)	実面積(ha)	畜種名	成牛	育成牛	子牛	計	飼料畑(作付延面積)	計					
(株) Harmony with (ハーモニーウイズ) 代表取締役 澤田 真	石川県	※IR(ナガハヒカリ)	※(自)7.2	乳用牛	78	4	13	95	イタリアンR	1,010	2,320 (土地利用 率) (177%)	家族	2	カ月 13.3	kg 10,645
		デントコーン	※(借)6.0						デントコーン	950		常雇	3		
		高消化ソルゴー	計 13.2	粗飼料自給率:79.8%			TDN自給率:61.4%		ソルゴー	360	乳脂率:3.8%	計	5	生乳生産原価:81.2円/kg(3.5%換算)	
経営の概要		<p>河北潟干拓地への入植2代目による酪農経営で雇用労働力を主体とした法人経営を展開し、借地による飼料基盤の拡大を図って粗飼料自給率は約8割と高い水準にある。飼料畑はイタリアンライグラス(2回刈)、デントコーン、ソルゴー(2回刈)の3草種の組合せによる1年2毛作(土地利用200%)を目標として自給率の向上を図るとともに、地域内の有志と自給飼料生産のための協業組織「河北潟自給飼料研究会」を結成して延べ94haの生産に取り組み、地域酪農家の自給飼料確保にも大きく貢献している。</p> <p>飼料作物はすべてサイレージに調製して既存のタワーサイロに貯蔵するほか、畑地や離農跡地にバンカーサイロやスタックサイロを設置して粗飼料確保に努めており、調製されるサイレージの品質も高い。</p> <p>家畜ふん尿は地区内にある堆肥処理施設「河北潟ゆうきの里」へ搬入され、もみ殻堆肥として飼料畑に還元している。</p> <p>平成21年より酪農教育ファームの取組みを始め、小学生を対象に酪農体験を通じて食やいのちの大切さを学ぶ場を提供している。また、干拓地内の若手農業者らと一緒に消費者向けの農業体験講座を開くなど、地域農業や地域社会との連携にも積極的に努めている。</p>													

農林水産省生産局長賞（飼料生産部門 飼料生産受託組織[コントラクター]）

出品者氏名	県名	出品財(飼料生産)		飼料生産受託面積等(ha)				受託農家			従事者	
		草種	面積	草種	面積	草種	面積	その他	酪農	肉用牛		その他
アグリアシストシステム(株) 取締役社長 石原聖康	岡山県	トウモロコシ、飼料稲、 イタリアンライグラス等	収穫面積 107ha	イネWCS(好スルカ他)	50.0	トウモロコシ	26.0	堆肥散布	戸	戸	戸	常勤:4人 臨時:3人
経営の概要		<p>酪農家3戸により近隣農家の牧草類の収穫調製の受託作業を開始して20年、県内コントラクターの先駆的リーダーであり、代表の石原氏は岡山県コントラクター協議会の会長として県内コントラクターの育成に尽力している。</p> <p>組織のある美作地域は県内有数の畜産地帯だが飼料畑面積が少なく、収穫調製作業や搬送には不利な中山間地の小区画水田(13a/筆)でイネWCS生産を主に、汎用型飼料収穫機を駆使してイタリアンライグラスやトウモロコシのロールベールサイレージの収穫調製作業を行い、飼料基盤に乏しい中山間地域の畜産農家への粗飼料の供給及び中山間地域における水田の維持(耕作放棄地発生の防止)を図っている。</p> <p>畜産農家の求める高品質なサイレージを生産する技術を活かしながら、耕種農家へ栽培管理を指導するなどの地道な努力によって地域内耕畜連携の重要な橋渡しを担っている。平成25年からは堆肥センターの運営を津山市から受託、さらに堆肥散布作業も行って従業員の雇用の安定を図りながら地域と一体となった経営努力を続けている。</p>										

第2回全国自給飼料生産コンクール出品財の概要

農林水産省生産局長賞（飼料生産部門 飼料生産受託組織[コントラクター]）

出品者氏名	県名	出品財(飼料生産)		飼料生産受託面積等(ha)				受託農家	労働従事者			
		草種	面積	草種	面積	草種	面積	耕種	常勤(男)	常勤(女)	臨時雇用	計
フィールドマスター合同会社 代表社員 林 二雄	熊本県	飼料イネ、イタリアライグラス、稲わら	収穫面積 149ha	イネWCS(ナミュカ他) イタリアライグラス	127.0 14.5	稲わら収穫	7.5	戸 130	人 3	人 2	人 7	人 12
経営の概要	<p>平成19年、地域の稲わら収集組織の中から5名の耕種農家によるサイレージ収集組織としてスタート。当初は予乾して収穫していたため、天候によっては収穫物の発酵品質が不安定となっていたが、ダイレクトに収穫作業が可能な細断型コンバインベラーを導入して発酵品質の向上につなげている。平成22年に法人化、効率的な生産体制を整備して地域の中心的コントラクターとして活動している。</p> <p>地域内に畜産農家が少なく飼料需要が見込めない中、地域外へ販路を求めて積極的な営業を展開、生産量と品質を高位安定させることで信頼を獲得し、地域内TMRセンターや大規模畜産農家などの大口需要者に対して安定した粗飼料供給を行っている。</p> <p>新技術の実証にも積極的に取り組み、より省力・低コストな飼料生産及び品質向上に対する意識が高い。また、オペレーターの育成や受託面積の拡大を通じ、今後も地域農業の担い手として期待されている。</p>											

日本草地畜産種子協会会長賞（飼料生産部門 飼料生産受託組織）

出品者氏名	県名	出品財(飼料生産)		飼料生産受託面積等(ha)				受託農家等			従事者	
		草種	面積	草種	面積	草種	面積	その他	酪農	肉牛繁殖		その他
ぬげん谷飼料機械 利用組合 組合長 美間坂和久	佐賀県	イタリアライグラス (サイレージ)	収穫面積 25ha	イタリアライグラス	25.2	-	-	-	戸 -	戸 12	戸 -	常勤:2人 臨時:1人
経営の概要	<p>中山間地域の小規模な肉牛繁殖農家へ粗飼料供給を行うため、地域の中核的肉牛農家2戸が結成した飼料生産受託組織で、飼料作物の刈取り、反転、集草、梱包(ロールペール、ラッピング)、輸送の収穫作業全般を受託して、作業を委託する農家の収穫作業の負担を大幅に軽減している。</p> <p>高齢化により困難となってきた地域の肉牛農家の粗飼料生産を代行して機械の装備費用や飼料費の低減など、生産農家の経営改善に寄与するとともに耕作放棄地の解消等に大きく貢献しており、地域農業生産の維持活性化のモデルケースとして県内への普及が期待されている。</p>											